

「一本の道」その後——小久保曹長のこと

『みずくらいど』三号に私が書きました「一本の道」軍靴の音について、その後わかったことがありますので紹介します。

昭和十年秋季大演習で、福生に宿泊された麻布歩兵連隊の兵隊さんのことで、私の実家に泊られた小久保曹長が、「その後、満州の前線に送られて戦死し」、「渡辺軍曹も……満州で重傷を負い」と書きましたが、『みずくらいど』発刊後、一部が紹介された『0425』の読者より「小久保曹長は私の上官でした」との連絡があり、曹長の所属していた部隊は、十一年五月に満州チチハルに派遣され、翌年、日中戦争ぼつ発と共に中国に進攻して、張家口を皮切りに戦闘を続け、十二年十月山西省崞県じゅんけんの激戦で戦死されていたことが明らかになりました。

福生に宿泊されてより二年、中国大陸に散っておられたのでした。

(成田和子)